

平成十四年度現代宗教研究所事業報告

1、教化研究会議

【1】第三五回中央教化研究会議

期 日 平成十四年九月五日（木）・六日（金）

会 場 日蓮宗務院

宿 泊 品川プリンスホテル本館

参加人数 一二二名（実数）

開催趣旨

(1) 中央教化研究会議は、広く法華経教化について論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催します。

(2) 中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、教区・管区での教化活動の現状を話し合い、お題目総弘通運動推進に係わる諸問題を検討します。

(3) 討議を通して、教学の現代化、教化の方策、教育問題、社会問題等に取り組み、問題の把握、

解決、教材資料の作成をめざします。

(4) 論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識をたかめます。

統一テーマ

「誓願」～お題目総弘通運動を自己評価する～

開催方式

(1) お題目総弘通運動最終年にあたり、研究的に点検・総括するため、従前の討議形式（四部会―分科会）ではなく、一泊二日を参加者自身のお題目総弘通運動自己評価のための研究形式（四分散会）で会議し、徹底討論する。

(2) 全体会議でお題目総弘通運動三期十八年についての報告を聞いたあと、KJ法によって分類されたグループによるワークショップを分散会形式でおこない、効率的に意見を集約し、全体会議でまとめる。

①全体会議でお題目総弘通運動関係者から、十八年間の報告と本年実施のお題目総弘通運動の総括に関する中間アンケート結果を聞き、それをもとに全体会議終了時に、参加者自身の自己評価を三十字程度にまとめて書いてもらう。

②参加者自身の自己評価をパソコンで共通類型化し、参加者を共通項によって四分散会にふりわけける。共通認識の近いグループに分けた四分散会で、それぞれ座長を互選し、予定調和のない討議をおこなう。討議の深まったところで、もう一度三十字程度の参加者自身の自己評価を書いてもらう。パソコンで共通類型を集約し、より具体的に自己評価の全体像をさぐる。

③全体会議で四分散会の報告を聞き、全体的にまとめる。この時点で、当初、参加者自身が認識できていなかった「お題目総弘通運動の自己評価」が具体的に意識化され、七五〇以

後の自身の活動、ひいては宗門運動を考える調査となり、調査をもとにした研究に取り組む教化「研究」会議としての位置づけをすすめる。

(3)参加者は、参考資料『現代宗教研究』・『宗報』改訂1・2号(日蓮宗宗務院発行)などをもとに準備を進める。

(4)会議において討議されたものは、教区教研会議の資料や今後の教化に役立てられるようにまとめる。

(5)各教区教研会議における成果の発表として、教区・管区並びに教化センターで作成された教箋等の教化資料を会期中展示場を設けて展示し、教化情報コーナーで宣伝する。尚、各寺院で発行のものは、各管区(教化センター)に委託して展示する。

日程

第一日目 九月五日(木)

受付 一〇時〇〇分

開 会 式 一〇時三〇分

全体会議 一時〇〇分～一二時一五分

昼 食 一二時三〇分～一三時三〇分

分散会討議 一三時三〇分～一六時三〇分

移 動 一六時三〇分

夕 食 会 一八時三〇分～二〇時〇〇分

第二日目 九月六日(金)

朝 食

移 動 八時三〇分

分散会討議 九時三〇分～一〇時三〇分

全体会議 一〇時四五分～一一時三〇分

閉 会 式 一二時三〇分～一二時四五分

昼 食 一二時四五分～一二時一五分

解 散

参 加 者

教区教研運営委員、或いは内容に関心がある教師(管区一名必ず参加のこと。一名以上参加ご希望の場合は、宗務所からあらかじめ現宗研へご一報ください)。女性教師も積極的にご参加

ください。

【2】教区教化研究会議

十教区にて開催。日時・テーマは次の通りである。

●第二二回九州教区教化研究会議

六月十九日～二十日 福岡県福岡市博多エクセル東急にて開催

記念講演「機構改革について」

田端義宏(伝道部長)

第一分科会「機構改革について」

第二分科会「コンピューターのネットワーク化について」

第三分科会「宗門の二十一世紀を模索する」

●第二六回中四国教区教化研究会議

六月二十日～二十一日 岡山県岡山市妙林寺並びにアーケホテル岡山にて開催

主題設定「立教開宗七五〇の点検と今後の展

望」

基調講演「立教開宗七五〇の点検と反省」

伊藤立教（現宗研主任）

第一分散会「七五〇の点検と反省」

第二分散会「あなた僧侶として答えられますか？」

か？」

第三分散会「後継者への信仰相続ができていますか？」

か？」

第四分散会「葬儀について考える」

●第三二回近畿教区教化研究会議

六月二十六日 京都府舞鶴市総合文化会館にて開催

統一テーマ「お題目総弘通運動を推進しよう」

本年度テーマ「七五〇 あなたのお寺で出来ること」

『青少年教化活動』を考えよう！

討議形式（基調講演・実例報告・分散会・パネルディスカッション）

基調講演「あなたのお寺で『信徒青年会』の『核』創りを！」

『核』創りを！」

田端義宏（伝道部長）

実例報告①「本像寺の青年会」藤岡暎邦（滋賀県）

②「ボンズ・クラブ活動」

杉若恵亮（京都一部）

③「妙源寺青年会の活動」

藤崎一明（京都二部）

④「妙宏寺の青年会」 神谷行精（奈良県）

⑤「日青会の修養道場」大阪日青会（大阪市）

●第二六回北海道教区教化研究会議

八月二十一日 北海道帯広市法華寺にて開催

テーマ「日蓮宗のビハーラ活動」

基調講演「現代の死生観と中世仏教の思想」

佐々木馨（北海道教育大学教授）

「日蓮宗のビハーラ」

奥田正叡（京都府常照寺住職）

●第二一回東北教区教化研究会議

十月二十三日～二十四日 青森県青森市青森国

際ホテルにて開催

講演「法華経と水の心」市川智康（伝道局長）

●第二六回中部教区教化研究会議

十月十七日 愛知県名古屋市中村区サンルートホテル

にて開催

基調講演「伝える―立教開宗七百五十年記念事業をふまえて―」

伊藤立教（現宗研主任）

第一分科会「機構改革について」

第二分科会「記念事業について」

●第一九回北陸教区教化研究会議

十一月十五日 富山県富山市カナルパークホテル富山にて開催

基調講演「布教教化の視点からお題目総弘通十八ヶ年を評価する―ご生誕八百年に日蓮宗は生き残れるか―」

影山教俊（千葉県釈迦寺住職）

第一部会「法華経系新宗教への対応」

第二部会「青少年活動や、児童育成における寺院の役割」

●第二七回山静教区教化研究会議

平成十五年二月十四日 静岡県富士市ロゼシアターにて開催

基調講演「現代の寺院と僧侶は何をすべきか？

―公益法人としての寺の在り方を考える―」

長谷川正浩（日蓮宗顧問弁護士）

●第二七回京浜教区教化研究会議

平成十五年二月二十五日 東京都新宿区常円寺にて開催

テーマ「非戦と非暴力―摂折論争を通して日蓮宗の立脚点を考える―」

講演「日蓮聖人の摂折観―その現代的意義―」

今成元昭（立正大学名誉教授）

「石原莞爾の丸腰非武装論について」

西山 茂（東洋大学学長補佐）

「非暴力のたたかいの意味とその方法」

丸山照雄（天晴塾主宰）

「暴力的、あまりに暴力的な」

上杉清文（福神研究所所長）

●第二〇回千葉県四管区教化研究会議

平成十五年二月二十六日 千葉県茂原市茂原アスカにて開催

テーマ「二十一世紀の寺院運営―立教開宗七百

五十年からの出発―」

基調講演「寺院から離れる葬儀」ほか

本橋和也（アスカ葬儀店本部長）

2、研究・調査活動

(1) 左記の各プロジェクトチームにおいて、それぞれ調査・研究を進めた。

●ビハーラ講座プロジェクト（蟹江一肇顧問、山口裕光・渡部公容・奥田正叡・柴田寛彦各嘱託、古河良皓・今田忠彰・吉塚誠滋各師）

平成十五年二月五日～七日、宗務院に於いて、第七回ビハーラ講座を開催した。

●デジタルプロジェクト（岩本泰寛・影山教俊・小倉孝昭各嘱託、遠藤了暉研究員、酒巻寛友・成田東吾・鈴木大道各師）

現宗研のホームページサイト上に、全国の各教化センターが互いに情報を提供する「日蓮宗教化センター」を開設した。

十二月十二日、全国教化センターを対象に、日蓮

宗教化センターホームページ公開に伴う「相談会」を宗務院に於いて開催した。

●女性教師プロジェクト（伊藤美妙研究員、山田妙慧・山田妙真・亀井妙禮・影山妙恵・大島豊扇各師）

日蓮宗全女性教師一、〇一五名（十月十六日現在）を対象にアンケート調査を行い、女性教師の宗教活動の実態を検証した。

(2) 研究講座・研究懇談会を開催した。

●九月二十七日、第三回教化化学研究発表大会を宗務院に於いて開催した。

「教義（経・釈・論）の解釈―その方法論について」〈特別発表〉

長谷川正浩（日蓮宗顧問弁護士）

「永遠の生命の感触Ⅲ」龍澤泰孝（現宗研嘱託）

「発見、法華経の書家・井上有一―教化に生かす―」三原正資（現宗研嘱託）

「寺院や宗門に於ける女性教師の現状と今後の方向性」伊藤美妙（現宗研研究員）

「檀信徒とお寺の関わり、癒しの拠点として」

池上宗俊（北海道妙寿寺檀徒）

「現代に於ける本門戒壇建立の必然性と必要性について」
齊藤朋久（現宗研嘱託）

「教化学の視点」
影山教俊（現宗研嘱託）

『六卷抄』の構造と問題点（三）——「文底秘沈抄」本門の戒壇編を通して——
早坂鳳城（現宗研嘱託）

「佐渡に於ける四條氏領地——いかだ郷——について」
石川修道（東京都法華寺住職）

「近世洛北鷹峰における法華信仰について——本阿弥光悦の法華信仰——」奥田正叡（現宗研嘱託）
「長年の実践から——ありがたい通夜・告別式、交通安全祈禱の絶妙の一言」
堀 龍雄（神奈川県妙純寺貫首）

(3) 研究発表

第五五回日蓮宗教学研究発表大会にて研究発表を行った。

「本門戒壇、その現代的意義Ⅲ」

齊藤朋久（現宗研嘱託）

「日蓮宗のビハーラ活動——その理念と意義について——」
奥田正叡（現宗研嘱託）

「法華経と宮沢賢治の童話集『注文の多い料理店』」
三原正資（現宗研嘱託）

「久遠の生命を考察する」
龍澤日孝（現宗研嘱託）

「宗教と医療の関わり」蟹江一肇（現宗研顧問）

(4) 研究例会

●本年度は、プロジェクトとの合同会議として、宗務院に於いて開催した。

七月三十一日

「アンケートについて」

田島和久（立正大学専任講師）

十二月十一日

「KJ法について」 桐谷征一（立正大学教授）
(5) 第一三回法華教・日蓮聖人・教団論研究セミナーを

公開講座とし、宗務院で懇談会を開いた。

●三月二十五日

「日蓮聖人の摂受・折伏観について」

今成元昭（立正大学名誉教授）

3、出版・資料収集

- (1)「現代宗教研究」第三七号を編集し、全教師に配布した。
- (2)教団史研究資料の一つとして、各種資料より「平成十三年日蓮宗年表」を作成し、全教師に配布した。
- (3)第三回教化学研究発表大会の発表をまとめ、小冊子を作成し、全教師に配布した。
- (4)教団論研究セミナーの講演内容を所報に掲載し、全教師に配布した。
- (5)新宗教関係資料を収集し、保管した。
- (6)各種伝道教化に関する資料を収集し、保管した。
- (7)伝道・教化・研究に必要な図書を購入した。
- (8)今年度購入・寄贈図書のコンピュータ管理のための蔵書整理とデータ作成を行った。

4、研究交流・会議

- (1)四月十六日、東京都港区高野山東京別院で、高野山

- 真言宗布教研究所主催による「第二二回各宗派教化関係研究機関連絡協議会」を開催した。今回は「家庭教育に対する教化布教のあり方」の子のしつけについての教理的裏づけ」をテーマに、各教団の取り組み方や基本姿勢などを発表し、意見交換を行い、各教団の掲げる教化の方策が現代社会に本当に応えているかまた、その成果をもたらしているかについて具体的な話し合いが行われた。また、各教団・研究所発行の関係資料を交換し、研究交流を深めた。
- (2)六月二十七日、第一七回「教化センター連絡会議」を開催した。会議では、各センター発行の布教・教化・伝道資料の交換が行われるとともに、センター運営に関する問題点と各センター間の交流推進について話し合われた。また、現宗研のホームページサイト上での、「日蓮宗教化センター」が発足した。
 - (3)平成十四年十月十日に「教団付置研究所懇話会」が新規発足、加盟した。
 - (4)顧問会議・嘱託会議・研究員会議を開催し、研究所並びに研究のあり方などについて討議し、内容の充

実に努めた。

(5) 教区・管区主催の各種研究会・研究会などに出席した。